

第2回 遠隔授業に関する調査結果について（報告）

遠隔授業が始まって約2カ月が経過しました。全学規模での本格的な遠隔授業を進めるに当たっては、まず学生のみなさんのネットワーク環境や端末保有状況を把握することが必要と考え、第1回調査を実施しました。その結果はすでにご報告した通りです。この調査結果に基づき、学生全員が受講するためのガイドラインとマニュアルを作成すると同時に特別奨学金の支給を決定し、5月8日からの遠隔授業実施となりました。十分な準備期間が無い中で、原則全ての科目を遠隔授業で行うことになりましたが、皆様のご理解とご協力のお陰で概ね順調に遠隔授業が進められたと感謝しております。一方で、初めての遠隔授業であるため、学生・教員とも試行錯誤の連続であり、様々な問題点や改善点が日々報告されてきました。また、全国規模でのインターネット利用の集中による影響や受講環境の変化等も把握する必要が出てきました。そこで、遠隔授業の現状及び要望等を把握するため、6月1日～6月10日の間に第2回目のアンケート調査を実施しました。また、同時に遠隔授業を担当している科目担当者にも同じ日程で調査を実施しました。

今回の調査結果からは、学生の皆さんのネットワーク・パソコン環境が改善されていることが分かりました。また、ライブ型、オンデマンド型で実施している遠隔授業については予想以上に満足度が高く、新たな可能性を感じています。一方で、その運用には、学修環境の公平性や主体的学修を促す際に配慮すべきいくつかの課題も見えてきました。

アンケートの実施にあたり、学生のみなさんより貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。今回の調査結果を基に、新しい生活様式を念頭に置いた大学教育の確立に向け、遠隔授業の改善の一層の充実に生かしていきたいと思えます。引き続きご支援、ご協力の程、よろしくお願いいたします。

1. 回答状況

第2回目のアンケートには、6,806人の回答があり、全体で68.1%の回答率となった〔大学：5,657人（67.8%）、短大：980人（74.8%）、大学院：169人（57.9%）〕。前回に比べ、大学の回答率は約15ポイント下がったが、短大はほぼ同率、大学院は約12ポイント増えた。また、大学は学科による回答率の差が大きく、下級学年ほど回答率が高い傾向がある。

<大学>

	日文	英文	心福	教育	健康	環境	食物	情報	建築	音楽	薬学	看護	経営	合計
1年生	86.4	87.8	91.3	89.9	81.0	77.0	87.8	83.4	85.7	76.1	81.0	83.8	77.9	84.2
2年生	76.2	53.4	78.6	74.0	67.3	65.1	74.4	63.7	51.6	86.3	59.4	57.5		67.3
3年生	68.2	62.6	73.3	79.5	72.5	69.0	73.4	43.5	59.5	68.4	55.6	62.6		66.7
4年生	51.4	60.4	57.1	54.0	60.5	53.1	68.2	52.2	45.5	65.4	51.0	30.4		55.4
5年生											34.2			34.2
6年生											55.7			55.7
回答率	69.3	65.1	74.9	73.9	70.3	66.4	76.7	61.3	67.6	74.3	56.8	57.3	77.9	67.8

<短大>

	日文	英文	心福	教育	健康	食生	生造	合計
1年生	88.8	91.6	85.3	78.8	78.6	82.4	82.8	84.4
2年生	78.2	61.6	67.0	66.4	61.0	59.2	69.2	66.5
回答率	83.4	75.4	75.5	72.2	69.6	67.1	75.8	74.8

<大学院>

	合計
回答率	57.9

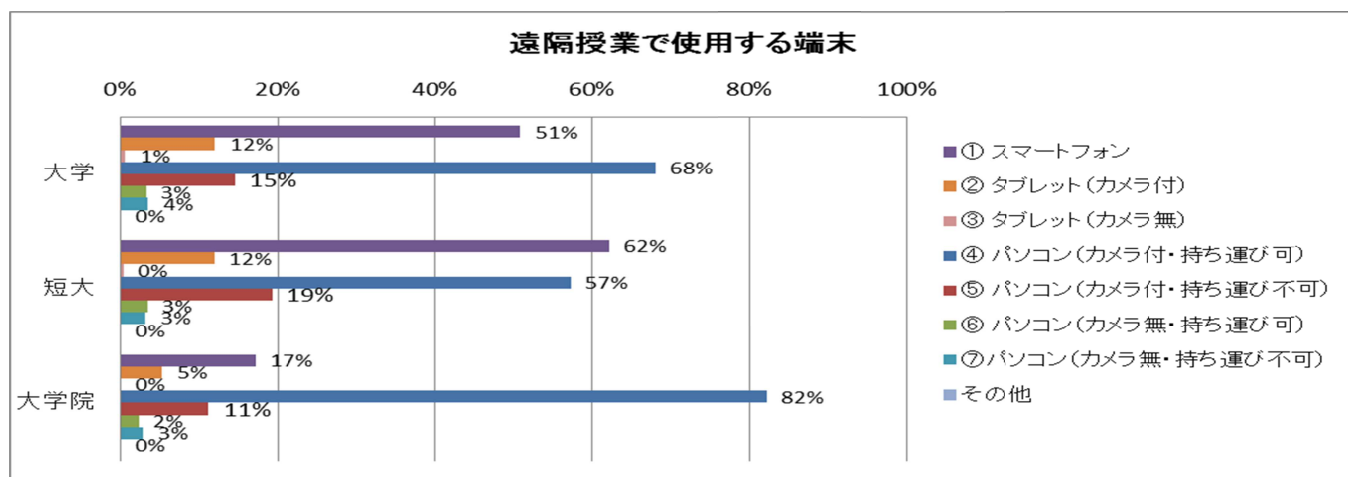
2. 集計結果

問1. 遠隔授業を受けている場所はどこですか？

遠隔授業を受けている場所は、大学、短大、大学院ともほとんどが「①自宅」と回答しており、それぞれ94%、94%、84%を占める。「②下宿先」は5%、4%、11%、「③本学の寮」での受講はいずれも1%程度となっている。本年度の寮生数の割合は、大学 2.2%、短大 3.6%であるため、地方からの学生の多くが、帰省先で遠隔授業を受けていると思われる。

問2-1. 遠隔授業で使用する端末はどれですか（複数回答可）。

遠隔授業で使用している端末は、大学では①スマートフォン、④パソコン（カメラ付き・持ち運び可）、がそれぞれ 50.9%、68.0%、短大は 62.2%、57.3%が保有しており、⑤パソコン（カメラ付・持ち運び不可）、②タブレット（カメラ付）の順で多い。大学院では、68%が④パソコン（カメラ付・持ち運び可）となり、①スマートフォン（14%）、⑤パソコン（カメラ付・持ち運び不可：9%）、②タブレット（カメラ付：4%）の順で、遠隔授業の際に利用しやすい端末であるパソコン（④⑤⑥⑦）の保有率は、全体の約9割を占める。①スマートフォンのみの学生は、大学で6.6%、短大12.1%、大学院1.8%で、全学生の7.2%となり、第1回目の調査で、スマートフォンのみの学生が約13%であったことから、パソコンの保有率が大きく伸びたことがわかる。



問2-2 また、その端末は個人専用ですか。

遠隔授業で利用している端末について、個人専用か、家族で共有しているか尋ねたところ、大学、短大とも75%程度が個人専用、20数%が家族と共有している結果となった。大学院では、個人専用が87%、家族共有が11%で、大学、短大より個人専用率が高い。

また、個人専用の持ち運び可能なパソコン（④⑥）を持っているのは、大学 59.3%、短大 48.4%、大学院 76.3%で、半数以上が保有していることが把握できた。今後、大学において、パソコンの必携化を検討する際の参考としたい。

問3. 遠隔授業を受講している場所で、利用できるプリンターはありますか。

大学 82%、短大 73%、大学院 77%が、遠隔授業を受講している場所で利用できるプリンターがあると回答している。第1回目の調査では、プリンターの保有率は大学 77%、短大 70%、大学院 73%であったため、微増していることがわかる。

同時に実施した科目担当者へのアンケート結果では、遠隔授業においてプリントアウトを「よく指示する」「時々指示する」のは 28.3%という結果だったが、指示がなくても資料を手元において受講したいという学生は少なくない。しかし、プリンターがあってもインク代や用紙代がかさむため印刷したくないという意見も相当数あり、授業資料の事前郵送を希望する学生が多い。学内では、プリンターのポ

イント利用が可能であるため、今後登学機会が増えることで、徐々に改善されると思われるが、第2波等により再度登学禁止となった場合には検討が必要である。

問4. 遠隔授業中に、ネットワークが中断したり遅くなるなどのトラブルはありますか。

心配していた、遠隔授業中のネットワークに関するトラブルは、大学・短大・大学院とも約半数が「ある」と回答している。第1回目の調査では、自宅にネットワーク環境がある（有線のみ、有線+Wi-Fi）割合は、全体で約9割となっていたが、実際に遠隔授業が始まり、ネットワーク環境によって、音声が届かない、動画が視聴できないなどのトラブルが多発している。ただ、1回でもあれば「②ある」と回答している可能性もあるため、遠隔授業への支障があるトラブルは、もう少し少ないと予測している。

オンデマンド型の場合は、通信状況の良い時を選んで受講できるが、ライブ型では出席確認中の通信中断や、雑音、タイムラグなどで説明が聞き取れないなどのトラブルが報告されている。

科目担当者側でも、通信量を少なくするために様々な工夫を行っているが、機器環境等や契約等による制約もある。また、大学の研究室等のネットワーク環境によるトラブルも指摘されており、これらについては場所を特定し、現地での具体的な調査が必要である。

問5. 遠隔授業で使用するパソコンやツールの操作方法が分からない時、どのように解決しましたか。

（複数回答）

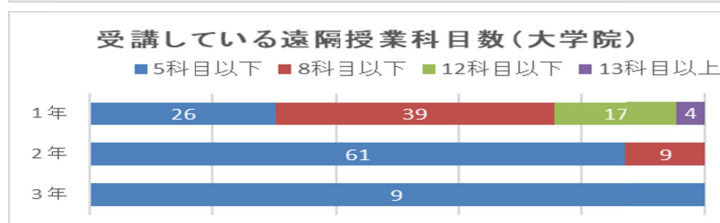
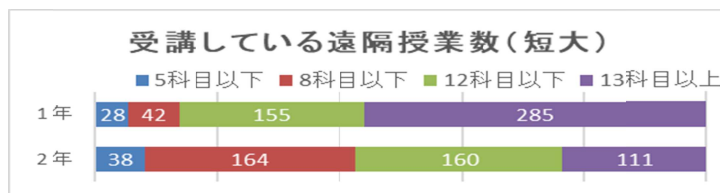
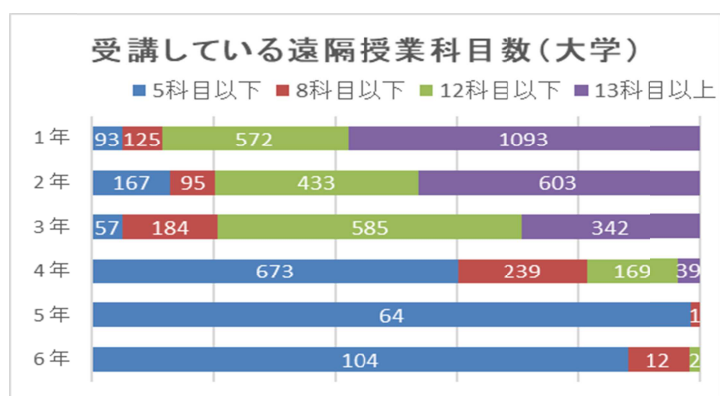
操作方法が「⑦分からないことは無かった」割合が一定数あるが、大学、短大、大学院とも一番多かった解決方法は、「⑤家族・友人・知人等に尋ねた」で、次に「⑥インターネット検索」、「②大学が発行した説明文書やマニュアル」、「③科目担当者・担任に尋ねた」と続き、「①大学のICTヘルプデスクに尋ねた」割合が一番少ない結果となった。

教員アンケートでは、「学生から、授業内容以外のネット環境やシステムの利用方法に関する質問に迫られた」との意見が多かった。パソコンやシステムに関する疑問は、ICTヘルプデスクへ問い合わせるよう学生に周知する必要がある。

問6-1. 現在、受講している遠隔授業は何科目ありますか。

回答結果では、短大、大学、大学院の順に、受講している遠隔授業科目数が多い。短大は、2年間で卒業に必要な単位を取得するため、9科目以上履修している割合が7割を超え、大学も7割近くを占める。一方で、大学院は5科目以下がほぼ6割、9科目以上履修している割合は1割ほどに過ぎない。

学年別にみると、大学、短大、大学院のいずれも下級学年ほど遠隔授業の受講科目数が多くなっている。問8には、「大学の授業の聞き方や、勉強の仕方が分からない」といった記述もあり、入学したばかりで、オリエンテーションやクラスメートとの交流もないまま遠隔授業を受講する1年生には、様々な面で不安が大きかったのではないかと推測している。



問 6-2. 第 1 回目の授業までに、科目担当者との連絡は取れましたか。

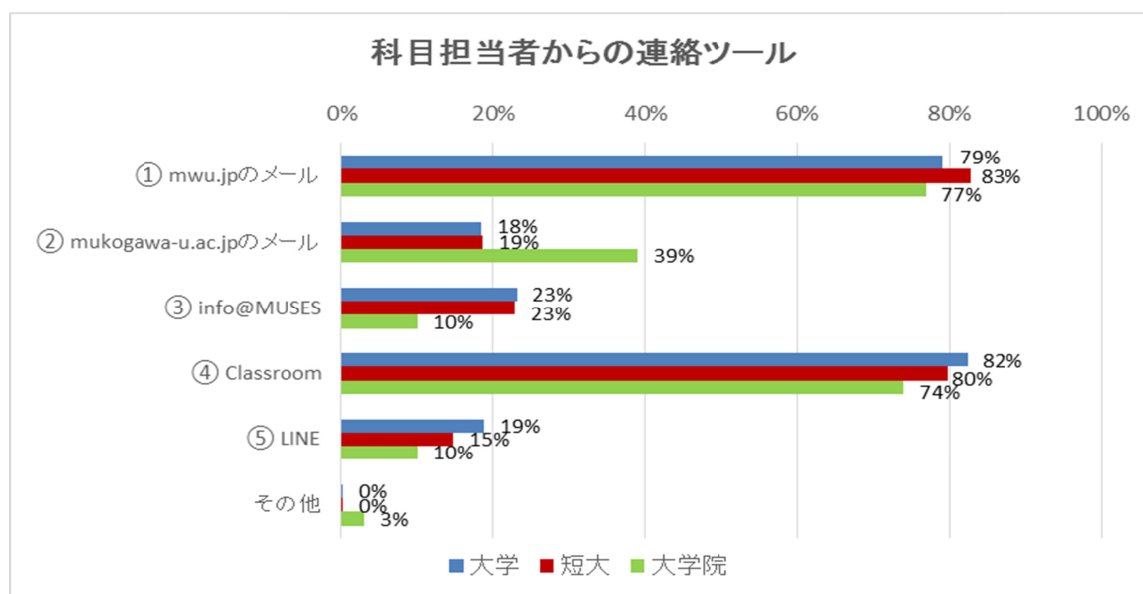
大学では 11%、短大では 17%、大学院では 8% の学生が「連絡が取れない科目があった」と回答している。科目によっては、事前連絡が不要だったケースもあるが、調査時点において、「科目担当者の顔も知らない」、「質問の連絡先が不明」、あるいは「メールで質問しても回答がない」という状況が散見され、教員側にも少なからず混乱があったことがわかる。

科目担当者のアンケートにおいて、第 1 回目の授業に参加できなかった学生側の理由を尋ねると、「ネットワーク・パソコン環境」が一番多いが、中には学生が「Classroom や Meet 等の操作方法を知らない」「科目担当者からの連絡を見ていない」とする理由も散見され、大学ホームページやメールおよび MUSES 等でマニュアル配信等の周知を図ったが、すべての学生が確認するには至らなかったことが分かる。また、友人への相談等が出来なかったことも一因かもしれない。今後、シラバスへの記載の他、科目共通に一定の標準化を勧めると同時に遠隔授業のマニュアルの周知徹底を図る必要がある。

問 6-3. 科目担当者からの連絡は、どのツールを使って行われていますか。(複数回答)。

科目担当者からの連絡ツールは、大学、短大、大学院とも①mwu.jp、②Classroom が 8 割近くを占める。これは、遠隔授業を Classroom で実施するという本学の方針を反映した結果といえる。大学院は、大学、短大と比べると、②mukogawa-u.ac.jp の利用がやや多い。全体として、③info@MUSES と⑤LINE は少ない傾向にある。

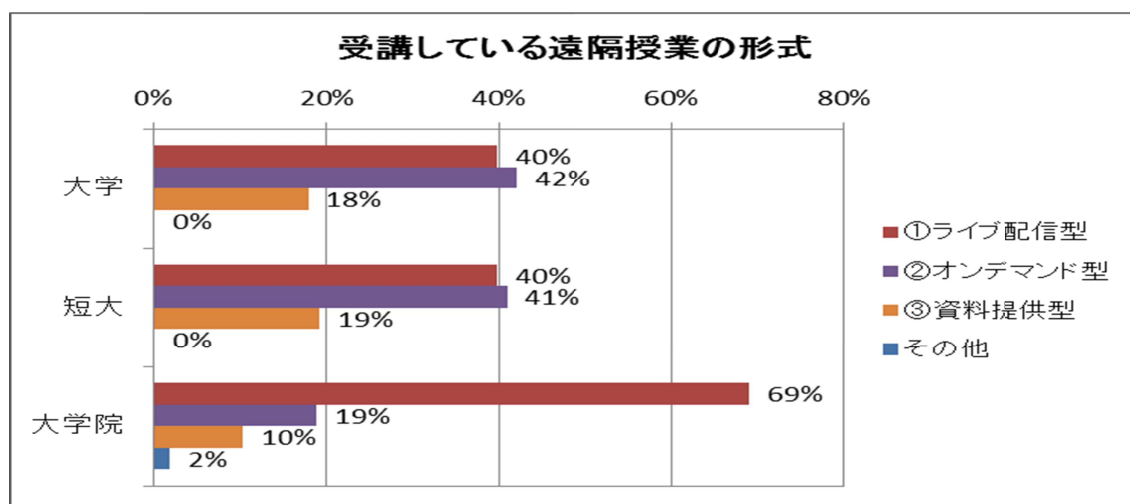
科目担当者へのアンケートでも学生への連絡ツールは④Classroom と①mwu.jp が最も多いが、学生からは「科目担当者に連絡しても返信が遅い」「返信がない」などの意見が多い。教員側も Classroom の設定等により急激にメール数が増加したことで処理が間に合わなくなったことや、学生からのメール送信の時間帯と他の業務との重なり等が生じており、連絡方法だけでなく、連絡時のルールや返信方法等についても取り決めておく必要がある。



問 6-4. 受講している遠隔授業は、どの形式が多いですか。(複数回答)

大学と短大では、②オンデマンド型、①ライブ型がそれぞれ 4 割と多く、③資料提供型が 2 割未満となっている、大学院は圧倒的に①ライブ型での受講が多い。

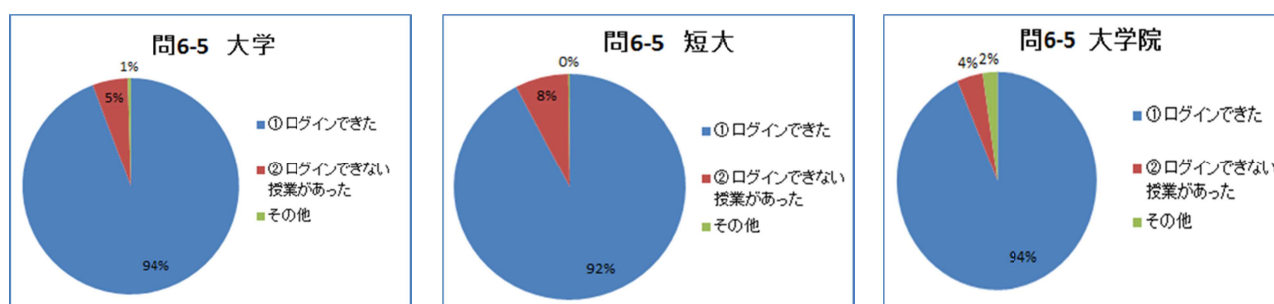
科目担当者へのアンケート結果では、①ライブ型、②オンデマンド型、③資料提供型の順に多い。③資料提供型はネットワークの影響を受けにくい、学生からは分かりにくいという意見が多く(問 6-11)、改善が期待される。



問6-5. 遠隔授業では、ClassroomやMeet、Zoomなど、指定されたシステムにスムーズにログイン（参加）できましたか。

大学、短大、大学院では、それぞれ95%、92%、96%とほとんどの学生がスムーズにログイン（授業に参加）できたと回答している。

ログインできなかった授業があると回答した学生の学年を見ると、大学、短大の各学年に数%程度いるが、大学1年生の5.8%に比べ短大1年生は9.4%とやや高くなっている。



問6-6. 問6-5で「ログインできない授業があった」と回答した方は、ログイン（参加）できなかった理由を教えてください。

ログインできない理由では、「ネットワーク・パソコン環境の不具合」が27.5%あり、大学、短大の1年生に多い。次いで、「MeetのURLやクラスコード間違い」（17.5%）、「招待がなかった」（14%）の他、学生の「操作方法が分からなかった」が続くが、中には「理由がわからない」という記述もある。

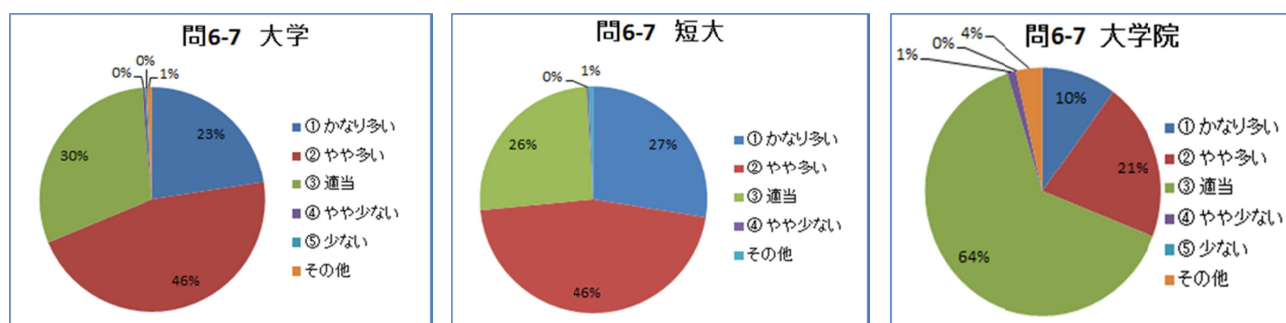
MeetのURLについては、Classroomに記載されるURLとカレンダーに記載されるURLが異なることによる混乱もあり、学生がMeetにログインして待っていても授業が開始されないなどのトラブルが報告されている。今後、授業運営に必要な連絡方法を標準化し、トラブルの多い操作については詳細マニュアルを事前配布するなどに対応したい。

問6-7. 遠隔授業で出される課題の量は適当ですか。

大学、短大では、「①かなり多い」「②やや多い」と感じている学生をあわせると、それぞれ69%、73%を占める。一方で、大学院では31%と低く、「③適当」が64%となっている。

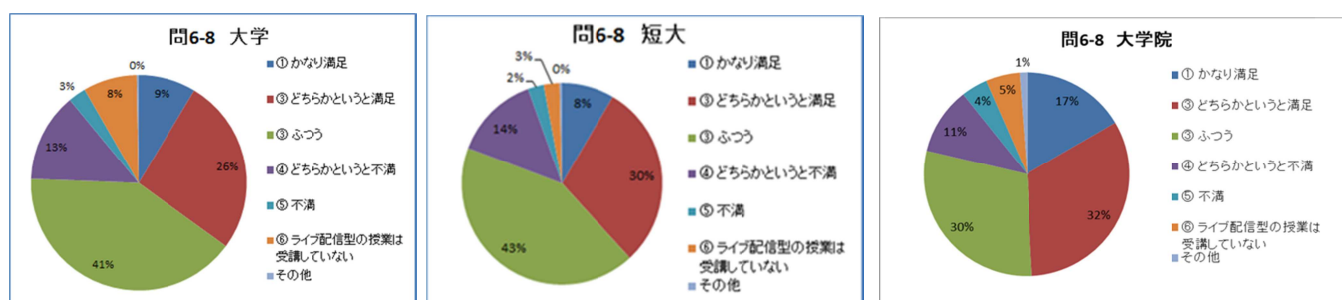
学年別にみると、下級学年ほど課題の量が多いと感じており、相当数の学生が改善を訴えている。出席を課題提出の有無で判断する科目も多く、遠隔授業における出席の在り方が問われている。

課題については、ライブ型よりオンデマンド型や資料提供型で多く、特に資料提供型は資料のみで理解して課題をこなすことになる。大学での学修方法が十分に身につけていない1年生には、大きな負担となっている。課題の多さについては、問6-11および問8にも改善を求める意見が多い。



問6-8、6-9. 遠隔授業（ライブ配信型）に対する満足度をお聞かせください。また、その理由を教えてください。

大学、短大は、「③ふつう」が4割以上、「①かなり満足」と「②どちらかと言えば満足」で4割未満、「④どちらかといえば不満」と「⑤かなり不満」で2割未満となり、ほぼ同じような傾向となった。大学院では「①②満足」が約5割を占め、大学、短大より満足度が高い。また、短大では「⑥ライブ型を受講していない」割合が少なく、大学でやや多い傾向がある。



ライブ配信型に対する「満足」「不満」の理由は、以下のとおり（記述内容の多い順）

＜「① ②満足」の理由＞

1. ライブ型授業は、通常の対面授業と遜色のない内容
2. 自宅でリラックスした環境で効率的に学習できる
3. 時間割通りなので生活習慣が身につく
4. 対面授業よりも質問しやすい
5. 集中して授業を聞くことができる
6. 先生やクラスメートともコミュニケーションできて楽しい

＜「④⑤不満」の理由＞

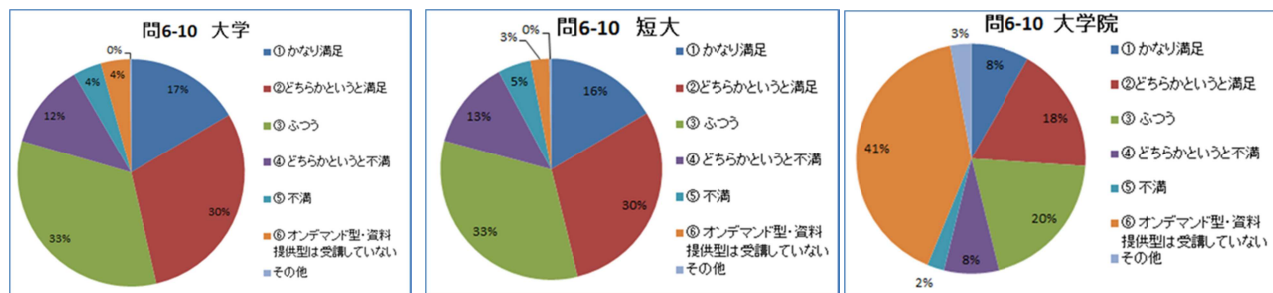
1. ネットワーク環境（通信環境）によるトラブルが多い
2. 音声聞こえにくい、動画が再生できない、タイムラグが発生する
3. 先生が一方向的に話しているだけで分かりにくい
4. 課題が多すぎる
5. ライブ配信型が続くと、目が疲れる

問6-10、6-11. 遠隔授業（オンデマンド型、資料提供型）に対する満足度をお聞かせください。また、その理由を教えてください。

大学、短大は、「①②満足」5割足らず、「③ふつう」3割強、「④⑤不満」2割未満で、ほぼ同じような傾向となった。しかし、大学院では「①②満足」が3割未満、「③ふつう」2割、「④⑤不満」12%

で、「⑥オンデマンド型・資料提供型は受講していない」が4割を超えている。前項の、ライブ型授業に対する満足度と比較すると、大学、短大においてはオンデマンド型の方が満足度は高く、全体として遠隔授業については高い評価を得ている。

※この質問では、オンデマンド型と資料提供型を一緒に尋ねたが、資料提供型は不満の方が多い。



オンデマンド型・資料提供型に対する「満足」「不満」理由は、以下のとおり（記述内容の多い順）

＜「① ②満足」の理由＞

1. 自分の都合の良い時に自分のペースで学習できる
2. 何度でも見直せる、聞き直せるので理解が深まる
3. 分かりやすく学びやすい
4. ネットワーク環境の影響を受けない
5. 自宅でリラックスした環境で効率的に学習できる
6. ライブ配信型よりオンデマンド型が良い

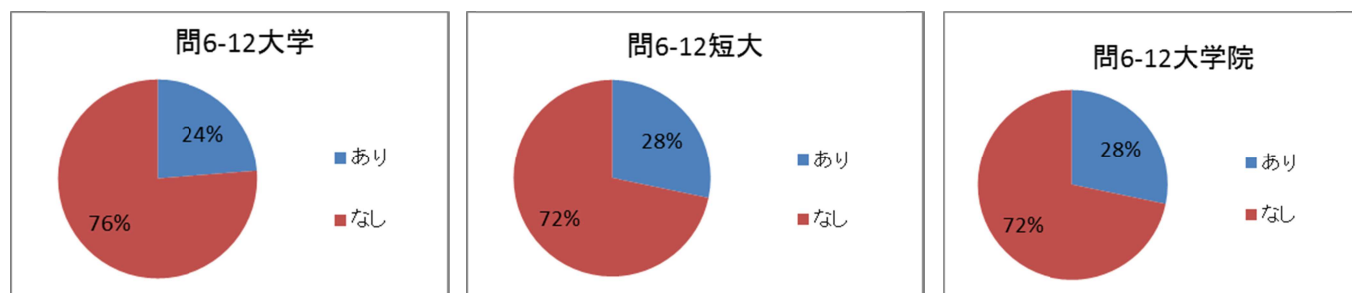
＜「④⑤不満」の理由＞

1. 資料だけ配付されても理解できない
2. 課題が多すぎる
3. 授業が短すぎて授業料に見合わない
4. その場で質問できない（すぐに回答がもらえない）
5. 印刷資料が多すぎる（印刷代がかかる、面倒）

問6-12 先生からの授業配信ややり取りで、アクシデントやトラブルはありますか。あれば具体的に記入してください。

大学、短大、大学院で、それぞれ24%、28%、28%と3割近くの学生がアクシデントやトラブルがあったと回答している。具体的な記述内容は、「ネット環境やパソコン、システムの不具合に関すること」「先生の操作ミスや連絡・対応の不備に関すること」「その他」に大別できる。

「ネット環境やパソコンのトラブル」は学生と科目担当者の双方に発生しており、「システムの不具合」はネット環境や利用者の操作ミスなどの要因が推測される。「先生の操作ミスや対応の不備」に関するトラブルは、急ぎ原因を明確にし、マニュアル作成等の対応を検討したい。



※記述内容の一部を抜粋

＜ネット環境やパソコン、システムの不具合に関すること＞

- ・マイクやカメラを ON にしても声や映像が届かない時がある
- ・Classroom (Gsuite) に関するトラブルが多い
- ・Google フォームで出欠確認する授業があるが、フォームが上手く送信できず欠席となった

＜先生の操作ミスや連絡・対応の不備に関すること＞

- ・先生からの Meet の招待メールが来ず、授業に参加できた学生とできなかった学生がいた
- ・配信漏れや、課題提出場所の未設置
- ・授業がアップされる時間がまちまちでわかりにくい

＜その他＞

- ・履修科目が多く、提出期限が把握しにくい

問 7. 現在、遠隔授業で受講している科目の内、分かりやすく工夫されていると思う科目があれば、その科目名と科目担当者、具体的な内容を教えてください。

大学 24%、短大 30%、大学院 22%の学生から回答があった。記入いただいた「分かりやすく工夫されている授業」の具体的なポイントは以下のとおり（一部抜粋）

- ・その日の授業動画を、授業後にネットでアップしてくれることで、後から聞き直せる。
- ・先生の顔と資料が画面に映し出されていて、対面授業を受けているように感じる。
- ・オンデマンド式で、動画を見て先生から事前に配布されていた資料を印刷したものに書き込んでいく。
出席課題はその書き込んだプリントの写真と、授業の感想を送る。
- ・PowerPoint でのプレゼンテーション機能を使って動画で授業を配信。毎回の出欠確認を兼ねた課題も授業内容が理解できるようなものになっている。
- ・先生が事前に用意されたイタリア語の文法を学ぶ動画を見るグループと Meet で先生と発音練習するグループの 2 つにわかれて、前半後半で交代して行われている。

問 8. その他、遠隔授業に関する意見や改善要望等があれば記入してください。

大学 20%、短大 18%、大学院 27%の学生が回答。ここまでの質問項目に、すでに回答している内容を再度回答している学生も多い。

記載内容は多岐にわたるが、分析上「パソコン・ネットワーク環境」「遠隔授業で利用するシステム」「現在の授業運営・内容に関すること」「授業の実施に関する連絡等」「今後の授業方法」「その他」に大別した。全体を通して記載が多い内容は、以下のとおり。

1. 課題が多い
2. 遠隔授業を実施する際のシステムの利用に関すること
3. 講義科目は、今後もオンライン授業（ライブ型、オンデマンド型別の希望含む）を希望
4. 実習・実技科目は対面授業を希望
5. 資料の印刷に対する負荷（経費、枚数、時間的余裕等）
6. 資料だけでなく音声や動画による解説等で、授業内容を充実してほしい
7. ネット環境に配慮した授業運営をしてほしい
8. 授業料の減額を希望
9. 出席確認方法や課題提出方法を、統一してほしい
10. 遠隔授業の実施に関する情報の一元化 他

内容的には、科目担当者への要求や、大学への改善・見直し要望が多いが、「先生が、一生懸命授業を準備してくださっているのが伝わってくる」「遠隔授業の方が集中して勉強できる」「遠隔授業の取り組みに感謝している」といった、現状の遠隔授業への肯定的な意見も多く見られた。

また、気になる意見として、「先生やクラスメートとのコミュニケーションを取れる機会を増やしてほしい」「大学の授業の聞き方、ノートの取り方などを詳しく教えてほしい」という1年生の声がある。Meetなどの活用による双方授業等の活用方法についても検討する必要があるだろう。これからの遠隔授業の在り方を考える際には、アンケートで得られた、学生たちの学びの現実をしっかりと捉え直しておく必要がある。

3. 集計結果のまとめと本学の対応

今回のコロナ禍において、本学は、学生のみなさんや教職員の健康・安全を守ると同時に、大学教育の遅滞なき遂行という使命を果たすため、全学レベルでの遠隔授業での対応という方針を固めました。緊急事態宣言の中で緊急の遠隔授業となり、学生の皆さんには、準備期間が不十分な中で大きな不安とご心配をおかけしたことと思います。

遠隔授業推進特別チームでは、今回のアンケート結果からいただいた、学生みなさんの遠隔授業への高い満足度を本学への大きな期待と受け止め、取り急ぎ、遠隔授業を進める上での重要な課題を、以下のとおり整理しました。すぐに解決できるものから、時間や経費等が必要なものまで混在していますが、with コロナ、after コロナを見据えた新しい大学教育の在り方を模索しながら、全教職員で解決に取り組んでいきます。

(1) 学生または科目担当者が遠隔授業を行う際のネットワーク・パソコン環境の改善

学生の皆さんのご自宅におけるネットワーク・パソコン環境については、第1回調査(4月)時からの改善状況が確認できました。引き続きご協力をお願いしたいと思いますが、大学側でも通信が込み合う時間帯を避ける、配信するデータ量を少なくするなどの対応を徹底します。

なお、現状ではスマートフォンのみで遠隔授業を受講している学生もいますが、一人5万円の学生支援奨学金の効果もあってか、今回の調査では、学生専用の持ち運び可能なパソコンの保有率が半数を超えました。本学では、今後の社会のICT化に対応した教育の必要性に着目し、新たに「環境整備推進特別チーム」を結成し、次年度から新入生一人1台のパソコン必携化による学習環境の標準化の検討に入りました。

(2) 遠隔授業における、ライブ型、オンデマンド型、資料提供型の評価

前期は、緊急遠隔授業として、科目担当者の判断によりライブ型、オンデマンド型、資料提供型のいずれかの授業を実施してきました。ライブ型授業には他の授業にはないメリットもありますが、自宅環境の影響(ネットトラブルによる授業中断や、生活音、タイムラグ等)による学習環境としての公平性を鑑み、後期は、講義科目を原則オンデマンド型で実施することを計画しています。

資料提供型については、アンケート結果で改善を求める意見が多かったことを受け、可能な限りオンデマンド型による対応の充実に努めていきます。

(3) 遠隔授業の運営方法(利用ツール、連絡方法、出欠確認方法等)の標準化

遠隔授業の運営方法は、各学科の方針にもよりますが、基本的には科目担当者に任せられています。遠隔授業はClassroomでの提供を原則としましたが、その利用方法は科目担当者ごとにバラつきがあり、学生側には、科目に応じた対応をお願いすることになってしまった部分があります。今回のアンケートでは、一部科目において、学生と科目担当者双方の授業運営方法に関する共通認識が十分にできていない例が散見されました。

このため、後期の遠隔授業では Classroom の利用方法だけでなく、授業運営時に利用するツールや連絡方法などについて、標準化を徹底していきたいと考えております。詳細については、科目担当者と意見交換し、決定内容は講習会の開催やマニュアル等の提供を行いながら周知するとともに、学生へのマニュアルの周知徹底も進めていく予定です。

(4) 遠隔授業で提供される教材コンテンツ及び授業内容の質と量の改善

遠隔授業では、科目担当者が様々な教材コンテンツや課題、小テスト等を作成して、学生の皆さんに提供しています。アンケートでは、一部授業ではありますが、特に資料提供型で資料が少ない・多すぎる、オンデマンド型の動画が短すぎる・長すぎるといったご意見や、課題が多い、説明の声が聞こえにくい、画質が荒くて文字が判読できない、授業内容が分かりにくい等の指摘もいただきました。

科目担当者も初めての対応であり、ネットワーク・パソコン環境にもよりますが、今回の調査結果を、学生の皆さんの環境にできるだけ配慮した教材コンテンツの作成に生かして頂くよう依頼します。また、「分かりやすく工夫されている授業」のノウハウを関係者で共有できる体制を整え、FD推進委員会と連携しながらより良い遠隔授業の開発に努めます。

最後になりましたが、対面授業でしか実現できない学びもありますが、遠隔授業での学びにも大きな可能性があることが見えてきました。今後は、対面授業と遠隔授業の組み合わせをどのように考えるのか、様々な視点から検討を進めていきます。

なお、前期の遠隔授業が終了する7月下旬～8月上旬に第3回目の調査を実施する予定です。より良い遠隔授業を実現するため、是非ご協力をお願いいたします。

以 上